



出雲の遊郭

写真に見る

115年前の長崎

日露戦争時代

一 順野 姫

□12□

には転落防止の木柵が施され、街路は桜が植樹されている。街路は桜が植樹され、軒先や屋根には丸い紅灯がとまる。春の演出と思われる。入り口には紺ののれんが掛けられていた。

写真は明治30年代の出雲遊郭（現出雲本通り）。浪ノ平に工場用地を確保し私娼の風紀を取り締まるため、明治26（1893）年、出雲町にこれらを移した。

丸山遊郭は検査から芸妓に派遣される「送り込み花制」の芸妓本位であったが、出雲町は「居稼ぎ制」の娼妓が多い娼妓本位の遊郭であった。「お定まり」の宿

成し、息子精八郎は澤山商會として事業を發展させ長崎の豪商となる。外国人居留地の大浦川一帯には、港灣荷役の関係者が多かった。斜面地の道の両側に石垣が築かれ、ベランダ、庭付きの和風切り妻の妓楼が建築された。丸山に比べて2階建てが目立つ。

明治5（1872）年の芸妓・娼妓解放令で年季付き人身売買は禁止され、翌年の公娼取締規則で遊郭は公娼制度の廃止は昭和32（1957）年施行の売春禁止法を待たねばならなかった。（長崎外国語大学長）

斜面地の新興遊郭

隨時掲載します